様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　９ 日現在

機関番号：１３９０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ００５６４

研究課題名（和文）シベリア先住民族諸言語のテキストコーパス構築と文法及びその構造的変化に関する研究

研究課題名（英文）Development of and Linguistic Research with Corpora of Siberian Indigenous Languages

研究代表者
長崎　郁（Nagasaki, Iku）

名古屋大学・人文学研究科・特任講師

研究者番号：７０４０１４４５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：北東シベリアで話されるコリマ・ユカギール語（ユカギール語族）とアリュートル語（チュクチ・カムチャッカ語族）を対象に、19世紀末以降に収集されたテキストに文法的な注釈を付したテキストコーパスを構築し、それに基づいてこれらの言語におけるいくつかの文法現象に関する記述の精緻化と通時的変化の解明を進めた。また、言語接触状況の解明を目的として近隣諸語との対照を行い、それぞれの言語が他言語から受けた、または他言語に与えた文法的影響のいくつかの具体的事例を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
シベリア先住民諸言語のコーパス構築とその共有はこれまでほとんどなされていない。このような現状に鑑みて、本研究が構築、公開したコリマ・ユカギール語およびアリュートル語のコーパスは、本研究内で実施した文法研究のみならず、今後のこれらの言語の研究の進展に大きく貢献するリソースとなるであろう。また、本研究が明らかにしたコリマ・ユカギール語、そしてアリュートル語における文法上の通時的変化および近隣諸言語との影響関係は、これまでにまったく注目されてこなかった新たな言語的事実であり、個別言語の研究という側面においても、シベリア先住民諸言語の研究という側面においても大きな進展をもたらしたと言える。

研究成果の概要（英文）：The project has constructed text corpora with grammatical annotations based on texts collected since the late 19th century, focusing on two languages spoken in northeastern Siberia: Kolyma Yukaghir (Yukaghir language family) and Alutor (Chukchi-Kamchatkan language family). Utilizing the corpus data, we have advanced the refinement of descriptions and the clarification of diachronic changes related to some grammatical phenomena in these languages. Moreover, in order to comprehend language contact situations, we have also conducted comparative studies with neighboring languages, revealing several specific instances of grammatical influences that these languages have either received from or exerted on other languages.

研究分野：言語学

キーワード：言語学　ユカギール語　アリュートル語　コーパス　文法変化　言語接触　古アジア諸語　シベリア

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究が研究対象とするユカギール語とアリュートル語は、シベリア先住民言語のひとつであり、いずれも消滅の危機に瀕した言語である。両言語に関するフィールドワークに基づく本格的な記述研究と言語資料の収集が開始されたのは 19 世紀末から 20 世紀初頭のことであり、その後、ソ連時代・ソ連崩壊後を通じて一定量の研究が蓄積されてきた。今後はこれらの資料および研究を利用しながら、記述研究のさらなる精緻化を進めること、さらに、近隣諸言語との対照・比較を行い、シベリアにおける諸言語の動態を解明してゆくことが期待される。しかしながら、その支えとなる今日的な意味での言語リソースの整備や共有は未だほとんどなされていない。言語資料がある程度蓄積された現在、本格的なコーパスを構築し、言語研究者や現地コミュニティーで言語教育や言語復興などに携わる人々と共有を進めることは極めて重要なことと考えられる。

２．研究の目的

以上のような背景のもと、本研究ではユカギール語とアリュートル語を対象に、（１）形態情報、統語情報、談話情報までの多層的な情報を注釈づけしたテキストコーパスを構築し、公開すること、（２）コーパスを利用してこれらの言語の文法現象の記述を精緻化すること、（３）収集年代によってデータを比較することにより、19 世紀末から現在に至るまでに生じた具体的な文法上の変化を明らかにすること、（４）近隣諸言語との対照から、言語接触による影響関係を明らかにすることを目的に掲げた。

３．研究の方法

本研究課題でコーパス化を進めるテキストとして以下を選定した。

言語	文献	収集時期	テキスト数（語数）
ユカギール語	Nagasaki（2015）	1990～2000 年代	35（約 13,500）
	Nikolaeva（1989）	1960～1980 年代	55（約 17,000）
	Jochelson（1900）	19 世紀末	100（約 23,000）
アリュートル語	Nagayama（2015）	1990～2000 年代	20（約 7,500）
	Bogoras（1917）	19 世紀末	24（約 4,700）

このうち、Nagasaki（2015）および Nagayama（2015）は長崎（研究代表者）および永山（分担者）がこれまでの現地調査において収集したテキストをキリル文字表記で書き起こし、ロシア語訳を付したものである。また、研究開始前には、収集年代の古いものも含めすべてのテキストに関して、ローマ字表記による電子化を終え、暫定的な形態分析を行なった段階にあった。

コーパス構築のプロセスでは、第一に、これらのテキストの各文・各語に対して (i) 形態素境界、(ii) 形態素の意味・機能に関する情報（グロス）、(iii) 構成素の統語範疇（品詞）を与えること、あわせて和訳と英訳を行うことを目指した。このような情報の付与に際しては、一貫性を高めるために、SIL International が開発した形態素解析ツール FieldWorks Language Explorer（略称：FLEx）を利用した。第二に、さまざまな統語現象の中から、年度ごとに特定の構造を選定し、それに関する注釈づけを進めることを目指した。その際に、句および節の構造を表現するために、括弧付きツリー形式を採用した。第三に、上記のテキストに加えて、可能な限り新たな資料を発見・収集し、コンピュータ上で読める形で入力することを目指した。

さらに、コーパス構築の過程でデータを観察することによって得られた新たな発見の中から成果が出せる領域を選び、文法記述の精緻化と、文法変化の解明、および接触による影響関係の解明へと繋げることを目指した。

４．研究成果

（1）2019 年度

ユカギール語およびアリュートル語の両言語のコーパス構築において、研究開始前に行っていた暫定的な形態分析を再検討し、形態情報と品詞情報を付与する上での新たな方針を策定した。特に Nagasaki（2015）および Nagayama（2015）所収のテキストに対し、新たな方針に基づく注釈づけを実践した。ユカギール語については、Nagasaki（2015）所収のテキストの英訳と和訳の作成も行なった。さらに、ユカギール語を例に、従属節構造、所有名詞句構造、文法関係といった統語情報の付与を自動化するための条件を洗い出し、括弧付きツリー形式のデータを自動詞的に生成するためのスクリプトの作成を進めた。

コーパスを構築する過程で得られた知見、具体的には、本研究が構築を進めるコーパスを利用した文法研究の可能性（ユカギール語）、コーパスを利用した辞書作成の過程で生じる諸問題（アリュートル語）、方言接触（アリュートル語）に関して研究発表を行った。

（2）2020 年度

コーパス構築において、前年度に引き続き、形態情報と品詞情報の付与、従属節構造の付与の作業をさらに多くのテキストに対して行なうと共に、テキストの英訳の作成も進めた。アリュートル語については、SNS やメールにより新たなテキストを収集し、コーパスに組み込む準備を進めた。

ユカギール語のテキストに従属節構造を付与する際に見えてきた、目的節および補部節の述語として用いられる動詞形式の歴史的変化についてその要因を検討し、ロシア語からの影響が変化の引き金となった可能性が高いという結論が得られた。これについて研究発表を行い、さらに論文としてまとめた。

アリュートル語に関しては、フィールドワークによる作例も含めた資料から、この言語の「複統合性」と呼ばれる性質について再検討し、論文として発表した。

（3）2021 年度

形態情報と品詞情報の付与、従属節構造の付与、英訳・和訳作成の作業を進めるとともに、ユカギール語に関して主節述語を構成する要素の注釈づけの方針を検討した。さらにテキストの英訳・和訳の作成も進めた。アリュートル語については、未整理であった音声資料を整理し、新たなデータとしてコーパスに組み込む準備を行なった。

ユカギール語のこれまでの記述研究において「迂言的過去」と呼ばれてきた述語形式に関して、コーパスを用いた調査を進めた結果、この述語形式の現れた文が単に「過去の状況」を表すだけではなく、「説明」「確信」「程度の甚だしさ」「内容疑問文」といった内容をもつこと、テキストを収集年代別に比較すると、「過去の状況」を表す例が次第に増えてきていること、この使用頻度の増加にユカギール語の接触言語であるエウェン語東方言が影響を与えた可能性のあるという結論が得られた。これについて研究発表を行い、さらに論文としてまとめた。

アリュートル語に関しては、新たに入手した方言資料に見られる方言的特徴を洗い出し、それについて研究発表を行なった。

（4）2022 年度

テキストに対する文法注釈（形態情報、品詞情報、統語情報）の付与、英訳・和訳の作成をさらに推し進めた。特に、長崎（研究代表者）と永山（分担者）が自身の現地調査により収集したテキストについては、収集地、語り手、収集時期などのメタデータの整備も行なった。

ユカギール語のテキストについては、形態情報（グロス）と英訳・和訳、メタデータ、語彙・形態素索引からなるテキスト集を印刷物として刊行したほか、バトラー(分担者)の協力のもと、データ全体をオンラインで公開した（https://kytexts.github.io/）。オンラインデータについては、新たな文法情報の一貫した注釈づけが終わり次第、今後も更新してゆく予定である。

ユカギール語とアリュートル語について、コーパスデータからロシア語との接触による文法上の影響を洗い出し、国際学会においてそれぞれ研究発表を行なった。ここでの議論の中から、アリュートル語の疑問詞 tita「いつ」の機能の変化を論文としてまとめた。

コーパス調査と文献資料調査から、ユカギール語とアリュートル語を含むシベリア諸言語・諸方言の数詞における加法表現の類型を明らかにし、その分布から想定される言語間の接触状況について考察し、論文として発表した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 長崎郁	４．巻 13
２．論文標題 北東シベリア諸言語の数詞における加法の表現	５．発行年 2023年
３．雑誌名 北方言語研究	６．最初と最後の頁 171-191
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Nagayama, Yukari	４．巻 35
２．論文標題 Changes in the Functions of the Word tita ‘when’ in Alutor	５．発行年 2023年
３．雑誌名 釧路公立大学紀要．人文・自然科学研究	６．最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 長崎郁	４．巻 12
２．論文標題 コリマ・ユカギール語の「迂言的過去」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 北方言語研究	６．最初と最後の頁 176-183
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 長崎郁	４．巻 11
２．論文標題 コリマ・ユカギール語の Supine：統語機能と言語接触	５．発行年 2021年
３．雑誌名 北方言語研究	６．最初と最後の頁 17-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 永山ゆかり	4．巻 -
2．論文標題 アリュートル語の複統合性	5．発行年 2021年
3．雑誌名 笹倉いる美・呉人惠・山田敦士（編）『津曲敏郎先生古稀記念集』Festschrift in honor of Toshiro Tsumagari's 70th birthday.	6．最初と最後の頁 146-162
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Nagayama, Yukari	4．巻 -
2．論文標題 Otrazhenie mezhetnicheskikh kontaktov v aliutorskom folklore. [Reflection of inter-ethnic contacts in Alutor folklore].	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Khuriun O. and E. Namakonova (eds.), Proceedings of the III International conference ‘Folklore of Paleoasian Peoples'. Yuzhno-Sakhalinsk, Porpnaisk.	6．最初と最後の頁 124-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計10件（うち招待講演　1件／うち国際学会　4件）

1．発表者名 Nagasaki. Iku
2．発表標題 On the contact of Kolyma Yukaghir with Russian
3．学会等名 17th ANNUAL MEETING of the Slavic Linguistics Society (SLS-17)（国際学会）
4．発表年 2022年

1．発表者名 Nagayama, Yukari
2．発表標題 On the contact of Chukchi-Kamchatkan (Koryak) laguages with Russian
3．学会等名 17th ANNUAL MEETING of the Slavic Linguistics Society (SLS-17)（国際学会）
4．発表年 2022年

１．発表者名 長崎郁
２．発表標題 19世紀末以降のコリマ・ユカギール語における文法変化：supineの使用頻度から
３．学会等名 「シベリア先住民諸語の歴史と類型」科研費主催研究会
４．発表年 2021年

１．発表者名 長崎郁
２．発表標題 コリマ・ユカギール語の「迂言的過去」
３．学会等名 日本北方言語学会第4回大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 永山ゆかり
２．発表標題 クンストカメラ所蔵アリュートル語カラガ方言資料について
３．学会等名 「シベリア先住民諸語の歴史と類型」科研費主催研究会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Yukari Nagayama
２．発表標題 Неопубликованные МАТЕРИАЛЫ И. С. Вдовина по корякским диалектам в ФОНДЕ МАЭ РАН
３．学会等名 XXIX-е Дульзоновские чтения, посвященные 150-летию Андрея Петровича Дульзона
４．発表年 2021年

１．発表者名 Nagasaki, Iku
２．発表標題 A Kolyma Yukaghir Corpus with Morphological and Syntactic Annotation
３．学会等名 4th International Symposium on Northern Languages and Cultures （釧路公立大学）（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 永山ゆかり
２．発表標題 アリュートル語辞書作成の諸問題
３．学会等名 日本シベリア学会第５回研究大会（同志社女子大学）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Nagayama, Yukari
２．発表標題 Otrazhenie mezhetnicheskikh kontaktov v aliutorskom folklore. [Reflection of inter-ethnic contacts in Alutor folklore]
３．学会等名 III International conference ‘ Folklore of Paleoasian Peoples'. Yuzhno-Sakhalinsk, Poronaisk (Russia)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Nagayama, Yukari
２．発表標題 Opyt polevykh issledovanii dialektov aliutorskogo I koriakskogo iazykov
３．学会等名 Mezhdunarodnaia nauchnaia-prakticheskaia konferentsiia "Sokhranenie i razvitie rodnykh iazykov i kultury korennykh malochislennykh narodov severa ..."（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計5件

1．著者名 Nagasaki, Iku	4．発行年 2023年
2．出版社 科研費基盤(C)「シベリア先住民族諸言語のテキストコーパス構築と文法及びその構造的変化に関する科研」、科研費基盤(B)「シベリア先住民諸語の方言に関する基礎的研究と語彙データベース構築」成果報告書	5．総ページ数 274
3．書名 Kolyma Yukaghir Texts	

1．著者名 Yukari Nagayama, Vladimir Nutayulgin, Lidiia Chechulina	4．発行年 2023年
2．出版社 Yukari Nagayama	5．総ページ数 13
3．書名 A Supplement to the Nymylan-Russian Dictionary: Alutor dialect. Part 2	

1．著者名 永山ゆかり，タチヤナ・ゴロワニョワ，エフドキヤ・プローニナ	4．発行年 2022年
2．出版社 東北大学東北アジア研究センター	5．総ページ数 98
3．書名 ЯЗЫК И ЖИЗНЬ НАРОДОВ КАМЧАТКИ（カムチャッカ先住民の言語と生活：ライフヒストリーと回想）2 (CNEAS Report 30)	

1．著者名 永山ゆかり、エフドキヤ・プローニナ	4．発行年 2021年
2．出版社 東北アジア研究センター報告/CNEAS Report,(27)	5．総ページ数 107
3．書名 ЯЗЫК И ЖИЗНЬ НАРОДОВ КАМЧАТКИ（カムチャッカ先住民の言語と生活：ライフヒストリーと回想）	

１．著者名 Nagayama, Yukari	４．発行年 2020年
２．出版社 The working group of the Grant-in-Aid for Scientific Research (B) "Typological Study for Syntactic Structures of Indigenous Languages of Siberia"	５．総ページ数 111
３．書名 Materialy po iazyku nymylanov-aliutortsev 2. [Materials of the Language of Nymylan-Alutor 2] (Materials of Siberian Languages 7)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	永山　ゆかり (Nagayama Yukari) (20419211)	釧路公立大学・経済学部・准教授 (20102)	
研究分担者	バトラー　アラステア (Butler Alastair) (90588873)	弘前大学・人文社会科学部・准教授 (11101)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関